

# 平成28年Y8サミット創快横手市議会 一般質問要旨

■ 期 日 平成28年11月16日（水）

## ■ 質問の順序

順番	学 校 名	議席番号	議 員 名	頁
1	横手南中学校	5番	太 田 夏 月 議員	1
		6番	松 野 陽 太 議員	
		7番	菅 原 羽 姫 議員	
2	山内中学校	17番	萩 原 陽 太 議員	2
		15番	新 田 唯 奈 議員	
		16番	高 橋 蓮 議員	
3	増田中学校	10番	武 内 穂 花 議員	3
		11番	高 橋 流 音 議員	
		3番	平良木 花 果 議員	
4	横手北中学校	22番	山 本 理 子 議員	4
		21番	櫻 田 陽 仁 議員	
		23番	内 藤 あたる 議員	
5	十文字中学校	9番	吉 田 嵩 明 議員	6
		8番	菅 原 紋 議員	
		2番	柴 田 吏 輝 議員	
6	横手清陵学院中学校	20番	伊 藤 友 理 議員	7
		18番	山 脇 健太郎 議員	
		19番	下 村 凜太郎 議員	
7	平鹿中学校	13番	鈴 木 陽 人 議員	9
		14番	新 山 莉里加 議員	
		12番	高 橋 遼乃介 議員	
8	横手明峰中学校	24番	永 瀬 萌 楓 議員	11
		25番	高 山 元 希 議員	
		26番	佐々木 夏 希 議員	

# 1. 横手南中学校

5番 太田 夏月 議員  
6番 松野 陽太 議員  
7番 菅原 羽姫 議員

## 1. 空き家及び空き地の有効活用による観光客の呼び込みについて

(1) 私たちは、横手市には空き家が多く、積雪の影響で危険が生じたり、古くなった建物によって景観が損なわれたりすることを問題として挙げました。調査の結果、横手市は「空家等対策協議会」を設置し、「費用請求」「空き家バンク」などを通して空き家問題の解消に努めているということが分かりました。私たちは、空き家や空き家を解体してできた空き地をどうにかして有効活用する手段はないものかと考えたのですが、横手市では空き家や空き地を有効活用する手段としてどのような対策を考えていますか。

(2) 空き家や空き地の有効利用についてですが、私たちは、空き家を解体してできた空き地を有効活用する手段はないかと考えました。そこで、空き家となった工業施設や農業施設などの跡地を雪捨て場として提供していただけて活用するという案を提案します。空いた土地を雪捨て場として市に提供した土地の所有者に対し、市が土地にかかる税金を免除したり、補助金を出したりするなどの金銭的な優遇措置をとれば、空き家を解体し空き地を雪捨て場として提供してくれる人も増え、冬場の除雪対策にもつながると考えたのですがいかがでしょうか。

(3) 私たちは空き家の有効活用として、空き家を処分したい、売りたいと思っている所有者の方にその空き家を提供していただき、宿泊施設として有効活用するという案を提案します。その宿泊施設を市で管理し、運営者を募ることで働く場所も増えるのではないかと考えました。

また、空き家を利用した宿泊施設を積極的にPRし、そこで働きたいという人を募集したり、横手への長期滞在者を増やしたりすることで、人口増加や観光客の増加にもつながると考えたのですがいかがでしょうか。

## 2. 山内中学校

17番 萩原 陽太 議員  
15番 新田 唯奈 議員  
16番 高橋 蓮 議員

### 1. 空き家及び空き地の有効活用による観光客の呼び込みについて

(1) 山内中では、観光客が少ないことを問題として考えました。そこで、横手市で行っているイベントやツアーについて調べてみました。その結果、送り盆祭り、かまくら祭りははじめとして、観る・遊ぶ・買う・ぬぐだまる・泊まるなど多様な企画があり、横手の魅力を発信されていることが分かりました。しかし、これらは観光客がその時期に訪れる一時的なものであります。そうではなく、同じ観光客が同じ目的のために、一年を通して定期的に横手を訪れることをねらった事業は行っていますか。

(2) 横手では横手市グリーンツーリズム連絡協議会が中心となって、農業体験や自然体験を通じて横手の魅力にふれたり、横手の農産物を提供する農家民宿によってその魅力をもっと感じてもらったりするための事業を行っています。しかし、これらは体験したり、オーナー契約して収穫や食べるときにだけ訪れたりする一時的なものだと思います。年間を通して何度か農業作業にかかわることによって、農業のすばらしさをより感じ取ってもらえるのではないかと感じています。そこで、同じ人が年間を通じて定期的に横手市の農家を訪れ、農作業に関わることができるような事業は横手市で行っているのでしょうか。

(3) 横手南中学校さんの方で、空き家を宿泊施設にするのはどうでしょうかという提案がありました。一年中宿泊施設が埋まるわけではないと思います。そこで、農業体験ツアー参加者に対して、空き家を宿泊施設として提供するという事業を提案します。

農業体験ツアーでは、時季ごとに行われる農作業を体験してもらいます。畑の準備から苗植え、除草作業、消毒作業など、農家の方々が年間を通して行っている作業を定期的に横手を訪れて一緒に体験してもらいます。最終的には、自分の手で収穫し、ものによっては農家の方と調理して食べてもらいます。このように、年間を通して作業に関わることで、農作業のすばらしさ、大変さを感じてもらえると思います。しかし、来るたびにホテルに宿泊するというのは大変だと思います。その農業体験ツアー参加には、横手南中のみなさんが提案した宿泊施設を無料で提供すればいいと考えます。こうすることで、年間を通して何度か横手市を訪れる機会をつくることができます。

この無料宿泊付き、年間農業体験ツアーの実現をお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

### 3. 増田中学校

10番 武内 穂花 議員  
11番 高橋 流音 議員  
3番 平良木 花果 議員

#### 1. マナーアップについて

(1) 増田では今年も「蔵の日」を前に地域でクリーンアップ活動をしました。次の日にはすでにたばこの吸い殻が落ちていました。大人の方が捨てた物としか考えられません。子どももポイ捨てをしている人がいますが、大人のポイ捨てが目立ってきています。

横手市では、このような環境面のマナーアップについての問題の対策をどのように考えていますか。

(2) 大人でも子どもでも自動車や自転車のマナーを守っていない人や、マナーが分かっていない人がいると思います。そのような人たちにマナーを理解してもらうためにどのようなことをしていますか。また、これからはどのようなことをしようと考えていますか。

(3) 今まで挙げてきた問題が改善されていないのでは、改善する必要があると思います。そこで、私たちが提案するのは「マナーアッププロジェクト」です。

「マナーアッププロジェクト」では、市が目指す基準を示したマナーブックの作成、マナー研修の実施、マナー徹底の風土づくりを目指したマナーコンテストを行うという内容です。市民全員でそのような活動に取り組み、マナーアップを進めていけばよいと思います。そして大人の方々だけでなく、私たち中学生も重要な担い手として取り組んでいきたいと思っています。

## 4. 横手北中学校

22番 山本 理子 議員  
21番 櫻田 陽仁 議員  
23番 内藤 あたる 議員

### 1. 地域行事の担い手不足の問題について

(1) 横手市には、魅力的な地域行事や伝統行事がたくさんあります。私たちの住んでいる地域の「送り盆祭り」や「かまくら祭り」の他にも、増田地域、山内地域、十文字地域などの地域にもたくさんの行事があります。しかし、地域行事、伝統行事の担い手不足が問題にあがることがあります。そのための担い手不足解消のための対策を提案します。

横手市民の参加や中学生のボランティア参加には限界があると考えられます。その時々によりボランティアの参加人数が変わることや行事によって人数の偏りが発生してしまうことが考えられるからです。

そのために「登録型のボランティア事業」を提案します。「登録型」というのは、人数の偏りがなく、確実にボランティアに参加してもらえるように、『横手市地域行事ボランティア登録システム』をつくり、そこに登録すると横手市の伝統行事の情報が登録者に送られたり、その中で行くことができる行事に参加できたりするというものです。その情報の発信にはインターネット、メール、SNSを使うことができると思われます。

手軽に登録でき、興味をもった行事の情報を知ることができたり、参加したりすることができる「登録型のボランティア事業」をつくり、地域行事や伝統行事の担い手不足を解消する必要があると考えますが、いかがでしょうか。

(2) 地域行事を教える機会を提供することを考えました。ボランティアなどの参加者が少ないことの原因の一つに、内容がよく分からない人がいるということが考えられます。従って、この機会を提供することで、地域行事の一つである「かまくら」や「盆踊り」などを知っている人も知らない人も、更に深く知ってもらうことができます。また、これによって登録してみたいと思う人が出てくることも考えられます。こうして地域行事を知ることにより、この文化を続ける人の増加や他県から来た人からの関心にもつながり、広く知ってもらうことにも期待を感じることができると思います、これを提案したいと思いますが、いかがですか。

(3) ボランティアに参加する人を集めるために、祭りやイベントへ訪れた人がイベントを体験できる企画を提案します。例えば「送り盆」ですと、観光客の人が気軽に太鼓を叩いてみたり、盆踊りを一緒に踊ってみるようなものです。秋田市の竿灯祭りのように体験することで、伝統行事の楽しさや、伝承していくことの大切さを知ってもらえるので、観光するだけよりもさらに「横手の魅力」を知ってもらうことにつながると思います。また、体験した人々にはSNSで拡散してもらうことで翌年さらに多くの人が横手のお祭りに訪れてもらえるようにつなげます。そして、前年体験してもらった人には翌年ボランティアの参加をすすめ、地域行事の担い手の増加を図ります。さらに、体験を通じて横手の魅力を知ってもらい、移住を決めた人には横手市から空き地、空き家を利用した住居を提供するなどの特典を与えてはいかがでしょうか。

## 5. 十文字中学校

9番 吉田 嵩明 議員  
8番 菅原 紋 議員  
2番 柴田 吏輝 議員

### 1. 自然を活用するイベントについて

- (1) 横手の特色の代表的なものとして自然があります。ここでは川に注目し、今ある魅力を地元の方にも他の方々にも感じていただくため、安全に川を楽しんでもらうことが良策だと考えます。雄物川や横手川、皆瀬川、成瀬川などを一斉にクリーンアップしたあとに、川遊びやカヌー体験、魚の放流など川とふれあってもらえば、自然をより身近に感じるができるとともに、横手をもっとよく思ってもらえます。このようなイベントは市として可能でしょうか。
  
- (2) 現在、横手市では桜や鳥海山、かまくらをテーマとした「フォトコンテスト」が行われています。その企画を生かして、さらに横手の自然のよさを伝えるために「市民歌フォトコンテスト」を提案します。市民歌の中で歌われている横手の春夏秋冬を撮影することで、横手の自然を市民に知ってもらえると思います。また、写真で横手を代表するモザイクアートを制作して設置するなど、広がりのあるイベントにすることができると思います。この提案をどう思いますか。
  
- (3) 横手にはたくさんの田んぼがあります。それを活用するための「田んぼアート」を提案します。春にツアーやイベントで田植えの体験をしてもらい、夏にはアートが完成します。するとそのアートは期間限定の観光地にもなるし、秋に収穫するときにも稲刈りの体験ができます。魅力あるアートで観光客にリピーターとなってもらい、横手の活性化にもつながると思います。そのようなことができる土地はあるのでしょうか。そしてこのような提案はどうでしょうか。

## 6. 横手清陵学院中学校

20番 伊藤 友理 議員  
18番 山脇 健太郎 議員  
19番 下村 凜太郎 議員

### 1. スポーツ振興と多機能な体育館の設備について

(1) 横手市が昨年提案したアリーナ建設案が否決され、断念したという記事を見ました。この否決には、議会側から「市民との合意ができていない」「合併特例債の期限ありきの議論だ」などの説明がありました。この問題に対して、二点質問と提案があります。

一つ目はアリーナ建設の否決に対して、市民からどのような反応があったかお聞かせください。もし要望が出されているのであれば、どのような団体や組織から要望が出されているのかをお聞かせください。

二つ目は、アリーナ建設によって市に与える影響はどのようなものがあると考えていますか。経済効果や文化的価値などのメリットや、財政面での負担などのデメリットも含め、想定していることをお聞かせください。

アリーナ建設には90億円以上もの建設費がかかる大事業ですが、横手市に与える影響は大きなものがあるのではないのでしょうか。地域の活性化のため、横手市民がスポーツや文化活動を通して生き生きとした心の豊かな生活を送るため、私たちはスポーツイベントの大規模化によるスポーツ振興策とアリーナ建設の再検討を要望します。

(2) 横手市の「スポーツ立市よこて」でまちを元気にする条例の5条に「すべての市民等が気軽にスポーツに親しむことができる仕組みの構築」という一文があります。これに基づき、今年の9月から10月に「第1回横手市民スポーツフェスティバル」が行われ、特に市民ハーフマラソンでは1,200人以上の参加者があり、大盛況だったと伺いました。画期的な取り組みだったと思います。

しかし、同時期に行われた4年生以下の児童を参加者とする「ドリーム・カップ」など各種大会は、商工会議所青年部が独自に行っている活動であることもわかってきました。市からの補助金の支出はあるのですが、明らかに組織間の連携がとれていないのではないのでしょうか。

そこで、より多くの市民やスポーツ団体に関わることができるように、「スポーツフェスティバル」を「よこてオリンピック」と称して様々な団体との連携を図りながら、より大規模化するべきではないのでしょうか。このことについて考えを伺いたいと思います。

(3) 横手市の「スポーツ立市よこて」でまちを元気にする条例の5条に「施設の長寿命化及び老朽化した施設の統廃合を進める」とありますが、現在横手市に50以上運動施設などがあることがわかりました。その中でも、大鳥公園にある市民プールが今年閉鎖されたり、老朽化が進んでいる施設や利用客が少ない施設もあり、統廃合の必要性があると思います。このような運動施設の統廃合などの整備の現状はどうなっているのでしょうか。教えていただきたいと思います。

## 7. 平鹿中学校

13番 鈴木 陽人 議員  
14番 新山 莉里加 議員  
12番 高橋 遼乃介 議員

### 1. 進学・就職先の充実のための大学建設（誘致）について

(1) 現在、横手市は皆さんもご存じの通り、少子高齢化に伴う人口減少が進んでいます。これらは、市民の出生率が低下している一方で、若者の他県または他市への流出が関係していると思います。それらを防ぎ、さらに経済効果を上げるためにも市内での高等教育機関の充実が必要ではないでしょうか。この点について市ではどのような対策を考えていますか。

そこで私たちは市内に大学を設置することを提案します。市内に大学を設置することで市内に若者が増え、彼らが生活するための環境が作られることでプラスの経済効果をもたらすものと考えています。既存の秋田大学横手分校の機能を拡充させ、横手市内でも学生が講義を受講できるようにすることも考えられます。また、大学の機能をすべてではなく、県内県外の大学の学部の一部を横手市に誘致するもの1つだと思います。廃校となった校舎や施設の利用も可能ではないでしょうか。

(2) もし、横手市に大学を建設するのが難しいのだとすると、せめて横手市付近であれば、若者の流出を少しは防ぐことができると思います。現在秋田県にある大学はほとんどが秋田市であり、横手市から通うとしたら不便です。横手市付近であれば、現在横手市に住んでいる若者にとってとても便利になります。そこで、横手市ではないところに建てるとしたら他の市との連携が重要ですが、協力して事業を興すという点で、他の市との連携は可能でしょうか。また、大学をつくるとして、現段階でどの市との連携が可能ですか。

(3) 大学を設置すると仮定した場合に、横手市の現状にふさわしい学科編成について考えました。

人口流出、人口減少を防ぐための活動として後三年を中心とした横手の歴史についてのPR活動に力を入れていると聞いています。そこで、”横手の郷土”について探究する学科があるとよいのではないのでしょうか。例として、歴史分野で後三年合戦のマンガがつくられたのは事実です。知ってもらいたいと思うのなら、まず市民が横手について深く探究できる場が必要です。

また、どこを見ても目に入る「田」。しかし、その田には担い手が少なく、耕作放棄地となっています。そこで、大学生たちが研究した品種等のデータをとるために提供するのはいかがでしょうか。これからの農業に関わる人を増加させることは経済効果向上にもつながるので、農学部が必要ではないかと考えました。

しかし、学生が入学しなければ何の効果も期待できません。入学する生徒が少なくなるのを防ぐために、大学卒業後、横手市で働く場合のみ、奨学金返済額を軽減させてみてはどうか。そうすれば人口流出を防ぐための策になるのではないのでしょうか。そうした奨学金制度の導入も提案したいと思います。

## 8. 横手明峰中学校

24番	永瀬	萌楓	議員
25番	高山	元希	議員
26番	佐々木	夏希	議員

### 1. 交通網の整備について

(1) 今、横手市は過疎化が進んでいることにより、公共交通機関の利用者が減って交通網が縮小していると私たちは考えているのだが、市ではこのことに危機感をもっているか。また、このことに対して、今までどのような対策を行ってきたのか、具体的な内容を伺う。

(2) 山内にスマートICを設置するという案はどうなっているか。

また、平成31年に横手北スマートICが完成するにあたって、IC周辺の道路整備をしてみてもどうか。

(3) 国が昭和48年度に基本計画新幹線に位置付けた、福島～秋田間のフル規格新幹線「奥羽新幹線」について伺う。

平成20年度において、市では「雪に強く、高齢者も安心・安全な地域交通環境の実現」という交通ビジョンの基本理念を立てていて、「雪」という面で公共交通の遅延などは市民にとって大きな問題である、というように説明している。また、市の人口は10万人をきるなど、減少しており、地域間連携は不可欠だとも説明している。

人口減少は雇用の減少が大きな理由の一つになっている。雇用を増やすには、都市として発展していることをアピールし、企業を誘致することが必然的な過程として見通すことができる。つまり、求められるのは、雪に強く、都市間が結びつき、経済的に大きな利益をもたらしてくれる交通機関であると考えられる。

これについて市はどのように考えていて、具体的な計画はあるのかどうか伺う。